

有明工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語Ⅲ
科目基礎情報						
科目番号	0046		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	創造工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	Power On English Communication II (東京書籍)、高校総合英語 Harmony:鈴木希明/いいずな書店 Data Base 3000 3rd Edition:桐原書店 Data Base 3000 Workbook C:桐原書店 Sound Master Elementary: 桐原書店					
担当教員	三戸 健司,村田 和穂					
到達目標						
1.英語を用いて話し手や書き手の意向を説明できる。 2.自分の考えを英語で表現する基礎的な能力を獲得する。 3.積極的なコミュニケーションを図ることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	教科書の英語を読んだり聞いたりして、その内容を多面的に説明できる		教科書の英語を読んだり聞いたりして、その内容を説明できる		教科書の英語を読んだり聞いたりしても、その内容を理解できない	
評価項目2	英語で自己表現する際に必要な、語彙・英文法・基本フレーズを円滑に運用できる		英語で自己表現する際に必要な、語彙・英文法・基本フレーズを運用できる		英語で自己表現する際に必要な、語彙・英文法・基本フレーズを運用できない	
評価項目3	英語で意見を求められたときに、積極的に英語を書いたり話したりすることができる		英語で意見を求められたときに、必要最低限の英語を書いたり話したりすることができる		英語で意見を求められたときに、英語を書いたり話したりすることが全くできない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A-1 学習・教育到達度目標 A-3						
教育方法等						
概要	2年生の英語Ⅲでは、教科書の奇数レッスンを対象として授業を行う。語彙力の増強はもとより、1年生で習得した基本英文法に追加して新たな文法項目を習得し、基礎的な英文法を一通りマスターする。最終的にはまとまりのある英文の中で、それぞれのフレーズや単語がどのような役割を果たしているのか理解しながら、英文読解できることを目標とする。					
授業の進め方・方法	授業は教科書をもとにした講義中心で、板書も行う。また各レッスンに付随した小テスト・単語小テストも並行して行う。					
注意点	教科書や配布されたプリント等は、忘れずに必ず授業に持参すること。各パートごとに単語テスト・小テストを実施する。また長期休暇中は与えられた課題をこなし、休暇明けの課題試験にきちんと備えること。休暇明けの課題提出は大きな評価対象となる。さらに、LLの評価点(20点)が2回の期末試験に組みこまれることを念頭に置くこと(評価割合の「その他」がLLの評価点となる)。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	春課題試験返却・解説 授業の Introduction		春課題試験を自己採点し、なぜ間違ったのか確認できる。授業の概要を把握できる。	
		2週	Lesson 1: Take a Shot or Not (写真撮影と記憶の関係) Part 1 (pp. 4-5)		「和食」が海外でどのように評価され、日本の料理がどのように広がっているか理解できる。	
		3週	Part 2 (pp. 6-7)		「和食」が海外の食文化の中でどのようにアレンジされているか理解できる。	
		4週	Part 3 (p. 9)		日本人がどのように海外の料理をアレンジし、日本の食文化に取り入れてきたかについて理解できる。	
		5週	Part 4 (p. 10)		国、地域、文化圏の違いにより、食文化も大きく異なっていることもある事実を理解できる。	
		6週	Summary Chart (p. 11)		Part 1~4の本文英文の内容を要約したサマリーチャートを完成することができる。	
		7週	Structures & Expressions (p. 15)		現在完了・過去完了[復習]、受動態[復習]、SVC(C=現在分詞、過去分詞)という文法事項を理解し、活用することができる。	
		8週	前期中間試験			
	2ndQ	9週	Lesson 3 Landfill Harmonic リサイクルオーケストラ Part 1 (pp. 30-31)		ランドフィル・ハーモニックが始まった経緯やカデウラの子供たちにもたらしている影響について学ぶことができる。	
		10週	Part 2 (pp. 32-34)		古代ローマで発達した「場所法」とその例が理解できる。	
		11週	Part 3 (pp. 34-36)		暗記力と脳の働きには相関関係があることが理解できる。	
		12週	Part 4 (pp. 37-38)		暗記力と睡眠には相関関係があることが理解できる。	
		13週	Summary Chart (p. 39)		Part 1~4の本文英文の内容を要約したサマリーチャートを完成することができる。	
		14週	Structures & Expressions (p. 43)		不定詞[復習]、関係代名詞の継続用法(1) 関係代名詞 what[復習]、関係副詞[復習]を理解し、活用することができる。	
		15週	期末試験			
		16週	テスト返却と解説			
後期	3rdQ	1週	夏課題試験返却・解説		夏課題試験を自己採点し、なぜ間違ったのか確認できる。	

		2週	Lesson 5 Japan's Secret Health Food 日本の秘密の健康食品 Part 1 (pp. 59-60)	物があふれる現代でも、新たな製品を開発する余地があることについて理解できる。
		3週	Part 2 (pp. 61-62)	女性のチームや主婦が開発した製品の特徴と、それらの特徴ができた理由について理解できる。
		4週	Part 3 (pp. 63-64)	春山満氏が開発した製品の特徴と、それらの特徴ができた理由について理解できる。
		5週	Part 4 (pp. 64-66)	真に創造的で多様な製品が開発されるために必要なことについて理解できる。
		6週	Summary Chart (p. 67)	Part 1~4の本文英文の内容を要約したサマリーチャートを作成することができる。
		7週	Structures & Expressions (p. 71)	動名詞の意味上の主語、関係代名詞の継続用法(2)、助動詞+have+過去分詞、完了不定詞を理解し、活用することができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	Lesson 7 The Power of Color 色がもつ力 Part 1 (pp. 87-88)	色の視覚的効果と心理的効果に関心を持ち、意欲的に聞いたり読んだりできる。
		10週	Part 2 (pp. 89-90)	色の視覚的効果と心理的効果について、聞いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。
		11週	Part 3 (pp. 90-92)	大好きな色のランキングについて、内容を的確に聞き取ることができる。
		12週	Part 4 (pp. 93-94)	「フランスお返しプロジェクト」の活動と困難な点、また、フランスのカキ業者の心情について理解できる。
		13週	Summary Chart (p. 95)	Part 1~4の本文英文の内容を要約したサマリーチャートを作成することができ・過去分詞で始まる分詞構文(「～される」
		14週	Structures & Expressions (p. 99)	て／～されると」と理由や状況・条件を表す) ・さまざまな不定詞(not to do / to have done / for A to do)を表す表現を理解し、活用することができる。
		15週	期末試験	
		16週	テスト返却と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
		英語運用能力の基礎固め	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
			実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	2	
		英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0